

全世界を感動の涙であらう映像詩人オルミの名作！



木靴の樹



ミネクよ 悲しむな
おまえの木靴は
パパがつくる

たとえ村から追われても...

1978年

カンヌ国際映画祭グランプリ



監督・脚本・撮影・編集＝
エルマンノ・オルミ

音楽 J・S・バッハ
オルガン演奏 フェルナンド・ジェルマーニ
製作 ミラノ映画製作集団(GPC)
ルイジ・オルナーギ
オマール・プリニョッリ
ルチア・ベツォーリ

カラー作品(イタリア映画)
RAI+ITALNOLEGGIO+GPC
フランス映画社配給

製作を世界からはこぶ
パワーズ



L'albero degli Zoccoli

全世界が泣いた傑作

全世界から3万人をこす映画人が集まって、2週間、連日連夜、マラソンのように、のべ3千回以上の上映が行なわれるカンヌ映画祭では、派手な、ドラマチックな映画でないという人をひきにくい。3時間をこえる映画などもつてのほか、という通説に挑戦するかのようイタリアが出品した「木靴の樹」は、第一回めの上映から、映画宮殿の大ホールを埋めた観客に、静かな、深い、圧倒的な感銘を与えて、評判が評判を呼び、堂々とグランプリを獲得した。しかも、審査委員会の全会一致の授賞決定で、そのことを映画祭参加者の大半の人々が歓迎するというおまけつきで、これはカンヌ映画祭の歴史上でも画期的な事件だ。

監督のオルミは31年生まれで、「木靴の樹」は長篇第9作。初の日本公開作品になるが、60年代のはじめから「就職」や「ゴダール」がベストワンに推した「婚約者」で知られ、イタリア映画界ではロッセリニを継ぐ大物監督として早くから期待されていた。寡作だが、題材をじっくりあたため、職業俳優はつかわず、撮影も編集も自分でやる。「木靴の樹」の脚本は20年前に書いて映画第1作にしようとして夢みていたもの。それを自然光だけの撮影で、驚異的に美しい映像を生みだし、季節が呼吸するような自然なリズムで編集している。

土人と自然をいくしむように、抱擁するようにつくったこの映画は、全世界で深い感動を呼んでいる。フランスでもイタリアでも「ピンクパンサー」4、他のアメリカ映画を圧倒して興行的にも大ヒットを記録している。

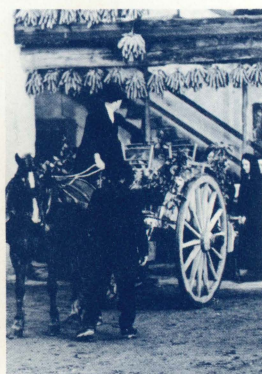


1978年カンヌ映画祭
グランプリ受賞

木靴の樹

エルマンノ・オルミ監督

L'albero degli Zoccoli



ほんものの主人公たち
「木靴の樹」の出演者は全員しろうとでほんものの農民たち。真実感にあふれていて、子供たちのすばらしさ、とくにラストシーンのミネクの涙に胸うたれない人はいないだろう。



北イタリアのベルガモ——今は工業都市化した、逆転したSFのように、時代は19世紀末、人間が大地と密接で、自然がかりなく美しく、やさしく、残酷だった頃の農園が舞台。農園には働き者のパティスティの4人家族。夫に先だたれ、6人の子供をかかえているルンクの後家さんと義父のアンセルモ爺さんの家族、年がら年じゅう長男とつかみあいの喧嘩をしているけちゃん、フィナルの6人家族、そして、美しいマッダレーナとその両親のブレナ夫妻の家族が住みこんでいて、とうもろこしやトマトを栽培し、牛や馬や豚を飼っている。家畜は農夫の所有のこともあるが、農園も、土地も、農具も、樹木一本に至るまで地主のもの。収穫は地主、残る3%が農夫の分け前だった。パティスティの息子ミネクが村の神父にみこまれて小学校へ行くことになる。「百姓の子が学校へ行くなんて、皆、なんていうだろう？」と途方に暮れるパティスティ。

秋の収穫から、初雪のクリスマスまでの夜ばなし。牛の病気を祈りでおすルンクの後家さん。春の一番トマトをこっそり準備するアンセルモ爺さん。若者ステファノに求婚されるマッダレーナ。馬に裏ざられて寝こむフィナル。学校の帰りにミネクの木靴がこわれてしまう。禁じられた樹を伐って息子の木靴をつくるパティスティ……



マッダレーナ



ステファノ



フィナル

木靴の樹の主なスタッフ

監督・脚本・撮影・編集……………エルマンノ・オルミ
美術……………エンリコ・トヴァリエリ
音楽……………ヨハン・セバスチャン・バッハ他
オルガン演奏……………フェルナンド・ジェルマニ
製作……………ミラノ映画製作集団+RAI+ITALNOLEGGIO
1978年製作イタリア映画/カラー・スタンダード/3時間7分
(12巻5,103m)

木靴の樹の主な登場人物

パティスティの家族=パティスティ(L・オルナーギ)、妻パティスティーナ(F・モリッジ)、ミネク(O・プリニョリ)、弟トゥーニ(A・フェラーリ)/ルンクの後家さんの家族=ルンクの後家さん(Th・ブレッシャニーニ)、アンセルモ爺さん(G・プリニョリ)、長男ベビーノ(C・ローク)、テレジーナ(P・プロリス)、ビエリーノ(M・フラトッス)、アネッタ(F・ウィラ)、未婚ベティーナ(M・G・カローリ)/けちゃんフィナルの家族=フィナル(B・トレヴァイニ)、妻フィナルダ(G・サンガレッティ)、じいさん(L・ベドロニ)、長男ウスティ(F・チェルヴィ)、おねじの次男坊(P・ペルトーリ)、オルガ(B・ミリアッチョ)/マッダレーナの家族=マッダレーナ(L・ベツォーリ)、父ブレナ(G・カヴァレリ)、母(L・フリジェニ)
ステファノ(F・ビレンガ)/神父ドン・カルロ(C・シルヴァ)/地主(M・プリニョリ)

カンヌの反響

●映像の美しさ…牧歌的なまでのまなざし…農民世界の遺産への頌歌となって、自然と人の調和の、真の幸福の瞬間をあじわせてくれる映画。感動的でやさしさにみちた壁画的大作だ。
アンリ・シャピエ氏

●これほど美しく、気高く、悲しみが胸をつきさす、厳格な映画があったらうか！
マルマン氏(ル・フィガロ)紙

●まねごとをいっさい排したほんものの映画。私たちにたわってくる感動は、真実の感動だ。
パロンセリ氏(ル・モンド)紙

●類のないボエジーの力でオルミが描いたこの農民社会は、子供の、いや、まさしく天使の社会だ。
〈カイエ・デュ・シネマ〉誌



パティスティ



ミネク



ルンクの後家さん

4月28日(土)より

エキブ・ド・シネマ5周年記念

ゴールデン・ウィークロードショー

地下鉄(都営三田線)神保町・下車1分
国電(中央線)水道橋・下車7分●神保町交差点

岩波ホール (262) 5252

お得な特別鑑賞券1,000円

(当日は一般・学生とも1,300円)
岩波ホールチケット・ガイドの他都内各プレイガイドにて好評発売中
●団体のお問い合わせはフランス映画社 586-6401へ
ゴールデンウィーク4月28日(土)~5月6日(日)

曜日	11:00	2:50	6:30	入替制・自由定員制
5月7日(日)以降	1:30	6:30		入替制・自由定員制
平日(月~金)	1:30	2:50	6:30	入替制・自由定員制
土・日	11:00	2:50	6:30	大曜最終回は休映